

糖尿病治療薬の併用について

糖尿病治療薬は、2014年4月にSGLT2 (sodium-glucose cotransporter 2) 阻害薬が上市され、経口血糖降下薬は7つに分類され治療の選択肢がさらに広がってきました。糖尿病治療薬では、より良い血糖コントロールを達成するために、作用機序の異なる他の血糖降下薬との併用が行われています。ところが、糖尿病治療薬の効能効果をみると、併用に縛りがあるものが少なくありません。保険診療上、必ずしも査定を受けるとは言い切れませんが、査定される可能性はゼロではありません。治療薬選択の幅が増えたことで、併用には、より一層注意が必要となりました。今回は、糖尿病治療薬の併用についてまとめてみました。

表は、各製剤と併用が想定される薬効群との併用可否について、添付文書をもとに製薬各社へ問い合わせのうえ調査したものです。作用機序が同じ製剤間でも、併用可否にバラツキがみられます。その理由として、併用効能の承認取得状況の違いや、同じ併用効能であっても、製薬メーカーの考え方の違いもあります。こうした併用効能の違いをめぐっては、厚生労働省は2010年に「経口血糖降下薬の臨床評価ガイドライン」を公表し、製薬各社が「併用療法長期投与試験」を活用し、各メーカーにより併用効能のバラツキを解消するように求めています。今後、併用効能拡大の承認が相次ぐ可能性があり、随時情報の確認が必要です。

2型糖尿病で適応取得している場合、基本的にはどの糖尿病治療薬でも併用可能となりますが、一部、有効性や安全性が検討されていないものもあります。表では、併用効能はあっても、添付文書上「有効性・安全性は検討されていない」と記載のあるものは、「未検討」と表記してあります。「未検討」と表記のあるものは、効能効果上併用可能であっても、使用に際しては十分な注意が必要と思われる。

表 糖尿病治療薬 併用可否一覧 (2014年10月現在)

| 薬効分類 製剤名 | メーカー名 | 併用が想定される薬効群 | | | | | | | | |
|------------------|--------------|------------------|-----------------------|----------------------|---------------------|-------------|--------------|---------------------|--------------|------------|
| | | スルホニル 尿素(SU)薬 | 速効型 インスリン 分泌促進薬 | α-グルコ シダーゼ 阻害薬 | ビグア ナイド (BG)薬 | チアゾ リジン薬 | DPP-4 阻害薬 | GLP-1 受容体 作動薬 | SGLT2 阻害薬 | インス リン注 |
| スルホニル尿素 (SU) 薬 | | | | | | | | | | |
| オイグルコン ダオニール | 中外 サノフィ | - | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| グリミクロン | 大日本住友 | - | × | × | × | × | × | × | × | × |
| アマリール | サノフィ | - | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 速効型インスリン分泌促進薬 | | | | | | | | | | |
| ファスティック スターシス | 味の素 アステラス | × | - | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × |
| グルファスト | キッセイ | × | - | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| シュアポスト | 大日本住友 | × | - | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × |

